

住む人・使う人が主人公！

私たちは住む人・使う人の
立場に立って設計しています。
お気軽にご相談下さい。

京都建築事務所

〒 604-8083

京都市中京区三条柳馬場車入中之町10

代表取締役社長 川下 晃正

TEL (075) 211-7277

FAX (075) 211-7270

<http://www.kyoto-archi.co.jp/>

〒601-8382

京都市南区吉祥院石原上川原町21
<http://www.creates-k.co.jp>

クリエイツかもかわ



TEL 075 (661) 5741
FAX 075 (693) 6605
送料何冊でも240円

全国認知症カフェ ガイドブック

認知症のイメージを変える
ソーシャル・イノベーション

コスガ聡一／著

B5判変型144頁カラー 2000円＋税

「認知症カフェ」がセカイを変える
——個性派28カフェに迫る

全国の認知症カフェ
200か所以上に足を
運び、徹底取材でユ
ニークに類型化。さま
ざまな広がりを見せ
る現在の認知症カ
フェの特徴を解析し
た初のガイドブック。



認知症介護の悩み 引き出し52

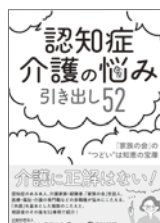
「家族の会」の“つどい”は
知恵の宝庫

公益社団法人 A5判 196頁 2000円＋税

認知症の人と家族の会／編

介護に正解はない！

認知症のある本人、介護
家族・経験者、「家族の
会」世話人、医療・福祉・
介護の専門職などの多
職種が悩みにこたえる。
本人や介護家族との「共
感」を基本とした複数の
こたえと、相談者のその
後を52事例で紹介！





こんごうさん

金剛山のふもとで、たのしく、自分らしく

大阪府富田林市にある拓共同作業所は、住民運動のなかで1996年4月にたった5人で開所しました。約20坪ほどの倉庫からはじまり、その後、利用者が増えて自前の作業所を建設したのが、2014年でした。しかし、行動障害をとまなう利用者にはたくさん動ける広い作業所が必要だということで、2017年1月、第2拓作業所を新築しました。水は使い放題、蹴ってもたたいても壊れない頑丈なつくり、洗い流せるトイレなど随所に工夫を凝らしました。

こごせ福祉会と名づけて社会福祉法人となったのは、2005年4月のこと。小規模認可でのスタートでした。「こごせ」は金剛山のことです。当時、障害者登山では、毎年金剛山に登り、市民に親しまれている山で、「こごせ」ははずせないという思いでした。



第2拓作業所の利用者は現在16名、10名の正規職員とともに、2グループに分かれて仕事をしています。作業の中心はアルミ缶のリサイクルで、回収から圧縮まで一連の作業を分担しておこなっています。もう一つのグループは、午前中はかならず外に出て身体を動かし、午後は室内作業をしています。

昼休憩は1時間以上。ゆったりまったりと、お昼寝やサッカー、卓球、カードゲームなど、いかにも楽しそうに過ごしています。

新しいことには不安がいっぱいの人たちも、作業所での3年で見通しがつき、明るい表情の毎日です。できることがもっと増えていくことでしょう。



写真左側の彼は、1年以上も腰痛に悩まされていて、大好きな廃品の運搬ができず、室内作業をがんばっていました。最近少し改善したのか、廃品の回収で外回りができるのをとってもよろこんでいます。

身体が元気だとおしゃべりも軽やかになり、職員を笑顔にします。この時期、外の作業場は34～35℃にもなり、身体への負担も大きいですが、お茶休憩は風通しのいい東屋で過ごします。例年なら、電車でのお出かけや会食もしていますが、コロナウイルスでお祭りもできず、ざんねんな一年です。それでも、夏の終わりごろには、夏バテに打ち勝とうと、どこかでバーベキューがしたいと楽しみにしています。



拓共同作業所では、「ロバのパン」を看板にパンやスイーツを製造販売していますが、下請け作業もたくさんこなしています。どんぐり班では手指の機能訓練や、リラクゼーションなどをとり入れています。この日は音楽レクの日でしたが、だれもが楽しみにしている時間で、みんなノリノリです。

また、以前から余暇時間を使って絵画にとりくんでおり、きょうされんのグッズデザインコンクールに応募すると、毎年だれかが入賞や入選をしています。昨年は、それらの絵画を集めて、絵画展を開催しました。その一つ、「魔法の鳥」はTシャツにもなって評判でした。

(写真・申 佳弥、文・上田利恵子)

【ひろばトーク】

心をかよわせ、生きる力をあたえる本をとどけたい

二村 知子 6

福祉のひろば

2020年9月号

●特集● なぜいま、ソーシャルワークを問い直すのか

住民と行政のはざままで矛盾を感じながら、 それでも地域に希望をもちたい	岸 佑太	12
ソーシャルワークが楽しいと思えるために	秋山 昌平	16
歴史をふり返り、問い直し、未来に生かす	藤井 渉	20
個人の努力ではなく、文化として醸成していくために	岡部 茜	24
【討論】 やりたいソーシャルワークをするために		28
なぜいま、ソーシャルワークが問い直されるのか	中野加奈子	34

●トピックス●

向日市事件の教訓を生かした生活保護行政を	増田 康夫	40
マイナンバーによる私たちの生活への影響	長友 薫輝	46
小児保健医療とCOVID-19パンデミック	武内 一	50
「オンラインひろばセミナー」の企画案を募集します		55
はじめまして、黄驥です。	黄 驥	56

●連載●

★新連載★WORK WORK——わくワク——

発酵バターたっぷりケーキとクッキー

社会福祉法人かがやき神戸なでしこの里 60

阿修羅がゆく わたしが好きな釜ヶ崎（14） 水野阿修羅 62

相談室の窓から

コロナ禍で増える電話相談 青木 道忠 64

育つ風景

新型コロナ禍のなかでみた五歳児の保育 清水 玲子 66

ひととしてあたりまえに生きたい

大阪ろうあ会館事務局長として（4） 清田 廣 68

映画案内 『海の上のピアニスト』

吉村 英夫 70

現代の貧困を訪ねて

生田 武志 72

混迷する野宿者への10万円特別定額給付金——大阪市の場合

似らすとれーしょん道場 似顔絵まんがアート

線が大事じゃ！ ラッキー植松 74

ホームレスから日本をみれば

ありむら潜 76

花咲け！ 男やもめ

川口モトコ 77

●表紙の絵●

神門やす子



みんなのポスト 58 / 福祉の動き 78 / 今月の本棚 81

●グラビア● 金剛山のふもとで、たのしく、自分らしく

心をかよわせ、 生きる力をあたえる本を とどけたい

株式会社隆祥館書店 代表取締役 二村知子さん

りゅうしょうかん
隆祥館書店は、一九四九年に父が創業、大阪市中央区で上町台地うみまちだちという、住宅地としては大阪で一番海抜の高いところにあります。創業七〇年になりますが、出版業界は非常にきびしく、とくに当店のような小さな書店にそのしわ寄せがきています。二〇年前に全国で約二万三〇〇〇軒あった書店の数が、いまでは約三分の一になっています。

新型コロナウイルスによる緊急事態宣言が出たときには、店を閉めるべきか悩みましたが、必要としている人がいるかもしれないという思いで、開けつづけました。すると、年配の方が来られ「図書館も大型書店も閉まっていたけど、ここやったら開いているかもしれない」と思ってきました。開いていてよかった」と声を詰まらせて仰いました。その方にとっては、本が生きる力になっているように感じました。外出できないなかで、あらためて本が、人々のライフラインでもあるのではないかと思いました。

隆祥館書店では、本のもつ力を信じて、お客さまが希求されるときに、それにお応えできるよう必要な本を提供することに努めてきました。店頭においてお客さまの置かれた状況や、お悩み、趣味嗜好などを聞かせていただいたうえで、選書作業をしております。私自身が、大げさではなく何度も本にいのちを救われたことがあります。パニック障害におかされたときは『愛、深き淵より』（星野富弘）、両親の介護に疲れたときは『老乱』（久坂部羊）など、私は学者さんでもお医者さんでもありませんが、自身が助けられた体験から、範囲を広げてしっかりと恩返しをしたいと思うに至りました。

そこで、何度かリクエストいただいていた「一万円選書」を開始することにしたのでした。一定予算を設定し、メールでお客さまからのアンケート（カルテと呼んでいます）をいただき、それをもとに選書したうえで配送するやり方です。実は、「一万円選書」の先駆者であり、敬愛する北海道の岩田書店さんからも、以前からすすめられていまし



ふたむら ともこ

2015年、父の跡を継いで隆祥館書店の代表取締役役に就任。2011年から開催している「作家と読者のつどい」は今年7月に256回目をむかえた。毎月第3水曜日には、「ママと赤ちゃんのための集いの場」を開催。「親子の心の処方箋に、絵本を」と題して絵本選書をはじめている。『13坪の本屋の奇跡 「闘い、そしてつながる」 隆祥館書店の70年』（木村元彦著、2019年、ころから）発売中。

詳細はホームページまで：<https://atta2.weblogs.jp/ryushokan/>

た。しかし、お客さまと向き合うことの大切さ、その責任の重さ、リアルな空間での交流に対するこだわりから、なかなか踏み切るのに勇気が要りました。

けれども、実際に開始してみても、一万円という高額な金額を『本』という媒体に付けてくださるそのお気持ちだけでもありがたく、カルテに書いてくださる事柄から、本への思いや期待が感じられ、目頭が熱くなりました。おひとりおひとりが、私という人間を信じて書いてくださるそれぞれの状況やお悩みは、情景が浮かぶほどに本当に胸に沁みました。

その信頼に真摯に向き合って、お役に立てるような本を選ばなければと思い、おひとりの選書に、何日もかかってしまうこともありました。それでも、選書した本をお届けし、心に響いたというお礼のメールをいただくと、うれし過ぎて、涙が溢れてしまうほどしあわせな気持ちになりました。

コロナ禍のなかで、残念ながら日本への文化に対する意識の低さが明白になったと思います。経済も大切ですが、経済をまわすための力になるのが文化です。経済をまわしているのは人であり、人をゆたかにするのが文化です。文化は、経済とおなじくらいに守られるべきものだと思っています。

本を買うだけならインターネットでも買えますが、お客さんとの対話のなかで、細部にわたってその思いを聞かせていただけることが、小さな本屋の醍醐味だと思います。そして、本を通じて作家さんや、医師、ジャーナリストの方々とも繋がらせていただけることにも、よろこびを感じています。父が残した言葉「本は薬にも毒にもなる、商業主義の餌食にしてはならない」という言葉を肝に命じて、書き手と読者をつなぐ本屋でありたいと思っています。

なぜいま、ソーシャルワークを問い直すのか

七月二十八日、あれだけ避難された「アベノマスク」を、政府は「介護施設の関係者からはお礼のご連絡もいただいている」と、さらに八〇〇〇万枚を配布すると発表しました。当初から「税金のムダ遣い」「費用対効果が感じられない」と非難ごうごうだったアベノマスクには、総額五〇〇億円以上の予算が使われています。にもかかわらず、今回の追加配布について、七月二十七日の朝日新聞では、全戸向けの配布が完了した二日後の六月二二日に、国は伊藤忠商事など九業者に、計約五八〇〇万枚を追加発注していたと報道しています。

厚生労働省は、七月末までの新型コロナウイルス感染拡大に関連する解雇や雇い止めは、四万人を超えたと報告しています。八月四日現在、全国的にふたたび感染が拡大し、明日の生活の見通しも立たない国民が急増しています。アベノマスクの追加発注は、ほんとうに国民や医療・福祉現場のためを思っていたことなのでしょう。

八〇〇〇万枚の追加配布については、発表直後から批判が噴出し、政府は配布の延期を発表しました。しかし、すでに発注は済んで税金は企業に流れているので、実際にマスクが国民に届くかどうかは、政府にとっ

ては大きな問題ではないのかもしれませんが。

「GO TOトラベルキャンペーン」についても、これだけ感染拡大状況にあるなか、前倒しで実行されたことについて、この事業を受託した「ツーリズム産業共同提案体」と自民党の二階俊博幹事長との強いつながりが報道されています。

今号の特集は、「なぜいま、ソーシャルワークを問い直すのか」です。新型コロナウイルスは、福祉現場に計り知れない影響を与えました。本誌でもずっと発信してきたように、正しい情報も、マスクなどの物資も、人手も、ないないだらけのなかで、自分が感染するわけにもいかない、利用者に感染させるわけにもいかないと自分自身を監視し、なんとか利用者さんのいのちとくらしを守ろうとふんばってきました。

そうした現場のふんばりの反対側では、国民のため、福祉現場のためと言いつつも、事実は政権を支える大手企業・経済界への気配りしか感じられない政府のすがたがあります。目の前にいる人たちのくらしといのちを守る実践がしたいのに、やりたいソーシャルワークができない。そうした矛盾やしんどさの原因は、国の制度・政策にあるのか、都道府県や市町村の地域行政にあるのか、もしくは働く組織や職場のなかで改善・工夫できることなのか。少し立ち止まって、目の前の現実を見つめなおし、問い直してみること、また、「やらなければいけないこと」ではなく「やりたいこと」から出発して日々の実践を問い直してみること、ひとつの大切なソーシャルアクションになるのではないかと感じます。

(編集主任)